

特集 たけはら魅力再発見

Vol. 5

第5回目となる今回は、昭和57年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている「竹原町並み保存地区」の竹原町並保存会の代表、三藤芳輝さんにお話を伺いました。



竹原町並保存会

会長 みとう よしてる 三藤 芳輝さん

●町並み保存地区の歩み

竹原は江戸時代に塩田を中心とした製塩町として繁栄し、現在まで続く町並みが形成されました。町並み保存地区は江戸時代以来、政治経済の中心でしたが、昭和35年の塩田廃止後は塩田跡地の開発が進み、駅周辺の新市街地に中心が移ったことで、保存地区は往時の姿がそのまま残り、昭和57年12月16日に全国で19番目の国の重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）に選定されました。

●竹原町並保存会の活動

保存会の主な活動としては、保存地区の清掃活動や県史跡頼惟清旧宅の管理、会誌「保存会だより」の発行、保存地区内の防災を目的とした年1回の防火訓練などがあります。このほかにも、保存地区で行われる「竹まつり」や「憧憬の路」などのイベントへの協力・参加も行っていきます。

町並み保存地区は、私たちにとっては生活の場であり、住人の入れ替わりはあっても町並み自体は昔からずっとそのままです。私たちにとってはそこにあることが当たり前の町並みですが、外から来た人に「すごい」「きれいになったね」と言ってもらうことで、町並みの価値を再認識し、活動にもやりがいを感じます。

一方で、少子高齢化に伴う住民の減少や、保存会活動の担い手不足が課題となっています。加えて、近年は重伝建選定当時を知る親世代から子世代への世代交代の時期でもあり、この町並み保存地区を今後どのように守り、将来に向けて継承していくか、模索しているところです。

●重伝建選定40周年を迎えて

町並み保存地区は、広島県内に4か所ある重伝建の中で最初に選定を受け、先人たちによって今日まで守り伝えられて来ました。令和4年には重伝建選定40周年を迎え、竹原町並保存会と竹原市教育委員会の共同で、記念写真集の発行や記念講演会の開催などの事業を行いました。今後も、町並みを受け継いでいきたいと考えていますので、多くの人たちに来てもらい、町並みの良さや重ねてきた年月を感じて貰えればと思います。また、将来を担う竹原の子供たちにも、自分の住んでいる街には古い町並みがあり、良い所なんだということを知ってもらえたら嬉しいですね。



竹原町並保存会

昭和57年に町並み保存地区は重要伝統的建造物群保存地区の選定を受け、同年には、住民による保存活動を目的とした上市町並保存会が発足しました。上市町並保存会は、下市町並保存会、小路町並保存会との合併を経て、現在も竹原町並保存会として様々な保存活動を行っています。



らいただすがきゆうたく
▲頼惟清旧宅（県史跡）

頼山陽の祖父頼惟清が紺屋（染め物屋）を営んだ建物で18世紀の建築とされる。



▲町並み保存地区は憧憬の路や雛めぐり等のイベントが実施されたり、映画・ドラマの撮影舞台にもなっています。